

浅間山の火山活動状況について

噴火警戒レベル 3 が継続

浅間山では、2月2日1時51分頃に小規模な噴火が発生し、火口から約1キロメートルに弾道を描いて飛散する大きな噴石が達しました。噴煙の高さは、火口縁上約2000メートルでした。その後、火山灰の噴出は8時頃まで継続しました。この噴火により、降灰が関東地方南部まで確認されました。

噴火発生前に多発した周期の短い火山性地震は、噴火後、減少しています。また、マグマの上昇を示すと考えられる傾斜変化は、ほとんどみられなくなっています。

山頂火口では、高感度カメラによる火映や、二酸化硫黄の放出量の多い状態が引き続き観測されており、熱活動は高まった状態が続いています。このような状態は急激に低下しないと考えられます。

また、浅間山では、2004年9月から11月にかけて、中規模の噴火が4回発生しており、これらの噴火の発生前には、今回と同様に、周期の短い火山性地震が増加し、傾斜計でマグマの上昇を示すと考えられる変化が見られたことから、今後も、中規模噴火の発生が予想されます。火口から4キロメートルの範囲では、弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒が必要です。



図1 浅間山 火口北西斜面上（火口から200m）に降下した噴石の跡
（ は約1メートル程度の大きな噴石）

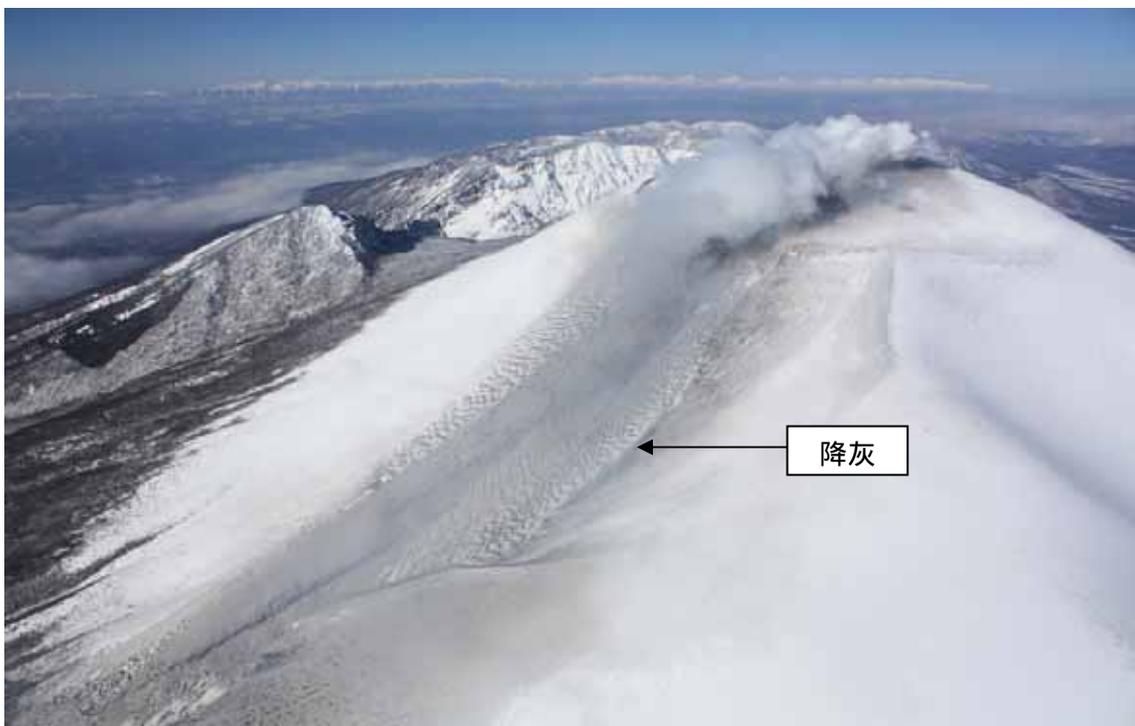


図2 浅間山 火口東南東上空から撮影

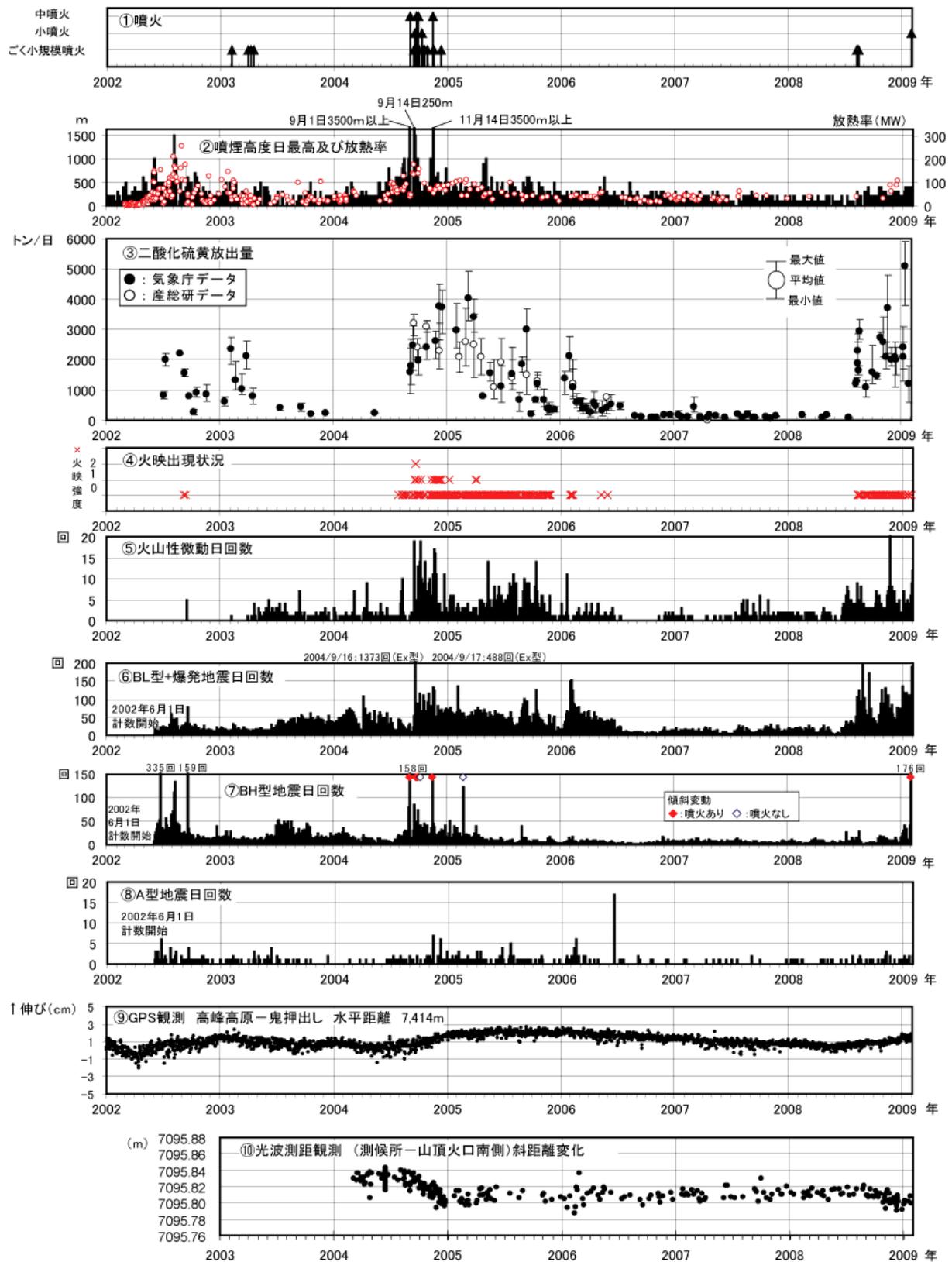


図3 浅間山 最近の火山活動の推移 (2002年1月1日～2009年2月2日12時)

独立行政法人産業技術総合研究所による観測結果が含まれています。

注4)を参照。

地震の種類別(図8参照)に計数を開始した2002年6月1日からのデータを掲載。

注1)を参照。今回から分解能の高い気象モデルによる補正を実施。

注・地震回数、微動回数は暫定です。

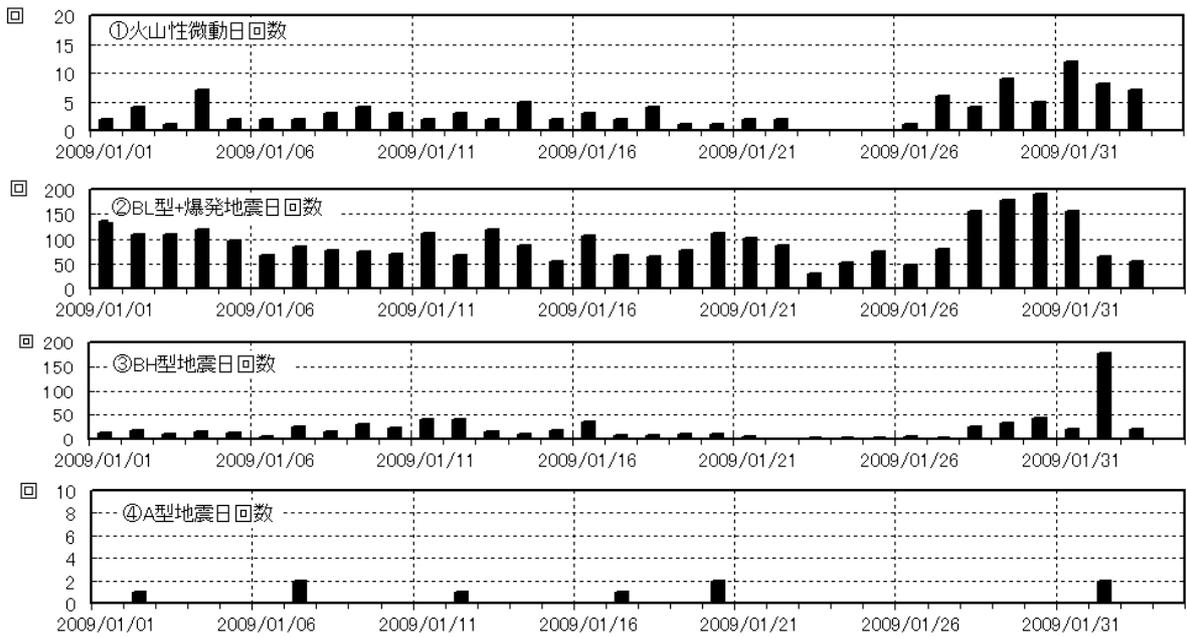


図4 火山性地震、火山性微動の日別回数（2009年1月1日～2月2日12時）
注：地震回数、微動回数は暫定です。

浅間山（分値）

2009/01/31 00:00 -- 2009/02/02 15:10

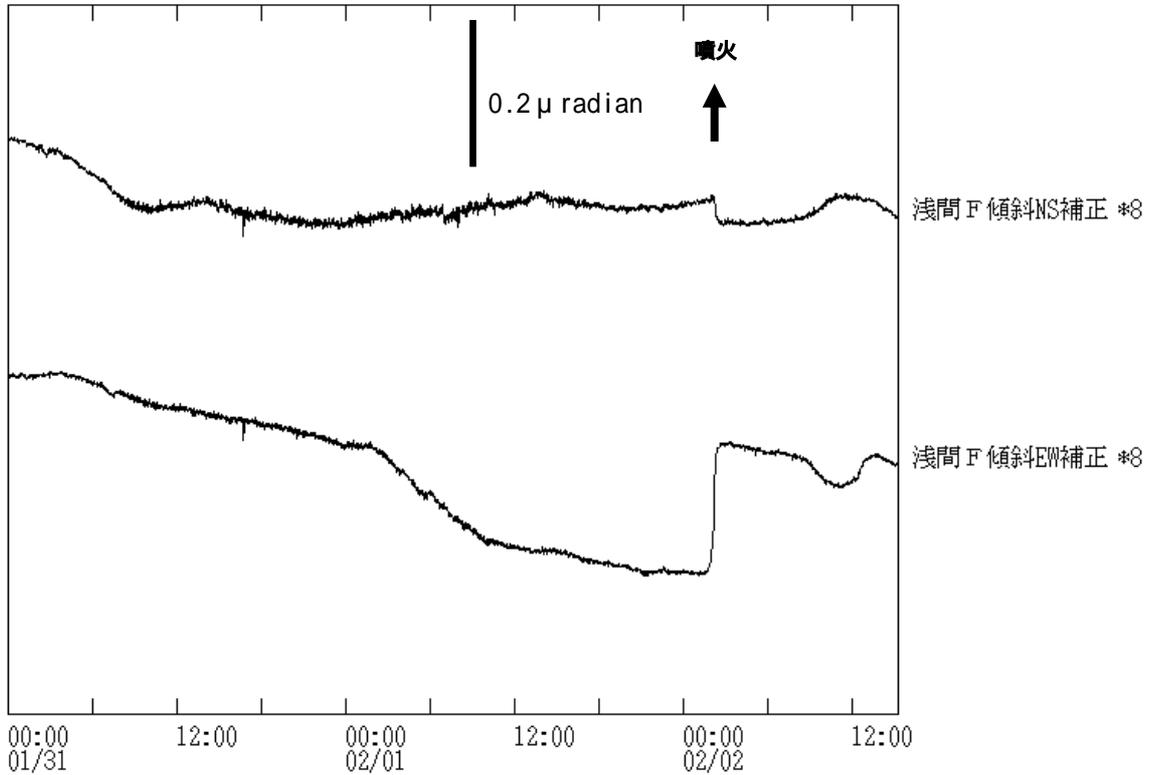


図5 浅間山 傾斜変化（2009年1月31日00時00分～2月2日15時10分）



図6 浅間山 降灰分布図

現地調査や聞き取り調査等による。丸数字は降灰を確認した地点。

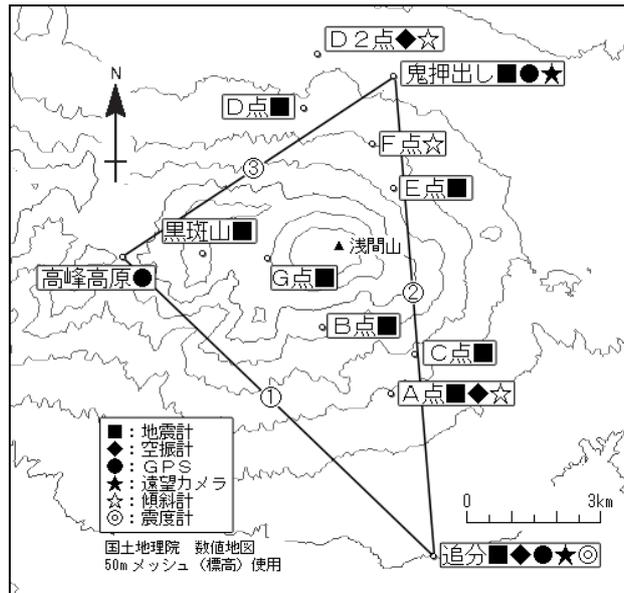


図7 浅間山 気象庁の観測点配置図（小さな白丸は観測点位置を示しています）

- 注1) レーザなどを用いて山体に設置した反射鏡までの距離を測定する機器。山体の膨張や収縮による距離の変化を観測します。
- 注2) 火山性地震の計数基準はB点で最大振幅0.1 μ m以上、S - P時間3秒以内です。
火山性地震の種類は以下のとおりです。

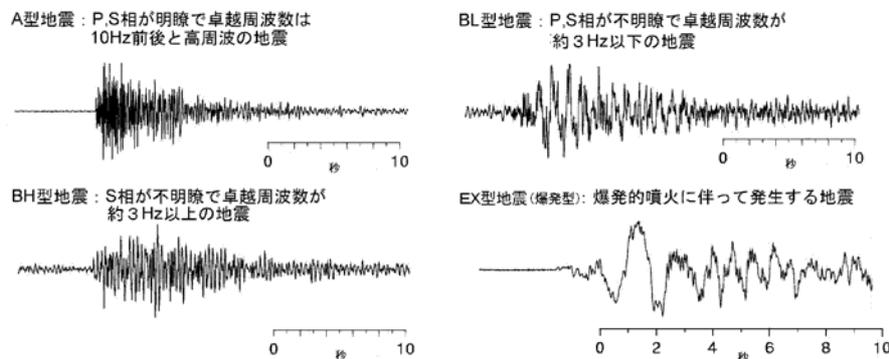


図8 浅間山 主に発生している火山性地震の特徴と波形例

- 注3) 噴煙高度と噴煙量は定時観測(09時・15時)の日最大値です。噴煙量は以下の7階級で観測しています。
- 1: 極めて少量 2: 少量 3: 中量 4: やや多量 5: 多量 6: 極めて多量
7: 噴煙量6以上の大噴火。噴煙が山体を覆うくらい多く、噴煙の高さは成層圏まで達したとみられる
- : 噴煙なし x: 不明

- 注4) 火映の強度は以下の4段階で観測しています。
- 0: 肉眼では確認できず、高感度カメラのみ確認できる程度 1: 肉眼でようやく認められる程度
2: 肉眼で明らかに認められる程度 3: 肉眼で非常に明るい色で異常に感じる程度
- : 火映なし x: 視程不良(終日観測できなかった場合)

注) 長野県建設部佐久建設事務所の黒斑山設置のカメラを監視に用いることによって、2008年7月より火映の検知能力が向上しています。